
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 333 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2012.05.10 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 ☆☆ 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 原発がふるさとを変える

—水上勉『故郷』(集英社, 1997年) 塩谷哲夫

<読者から> 春の香りを楽しむ

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

<編集後記> 2012年5月5日—この日を胸に刻みたい

<巻頭言> 原発がふるさとを変える—水上勉『故郷』(集英社, 1997年)

2004年に亡くなった小説家、水上勉の故郷は若狭である。その若狭には15基もの原発が立地している。世界一の原発集中地帯である。そこには、今や、政府、電力業界の再稼働の“期待”を担っている関西電力大飯原発があり、次世代のプルトニウム利用の技術開発のエース、日本原研の高速増殖炉「もんじゅ」もある(事故続きでまともに稼働したことがないが)。

『故郷』は水上の故郷である若狭を舞台に書かれた小説である。貧しくとも、素朴で心優しい村の人々が、また、昔ながらの仕組みが働いてきたムラ社会が、原発建設に伴って次第に怪しげに変容していく様子を、さまざまな歴史を背負った人々の暮らしや心の襞に分け入りながら、時には笑ってしまうほど面白く、また時にはしんみりと物語る。そして、そんな故郷を一端離れても、紆余曲折を経て、かつての故郷を想い、戻って来ようと思う人々がいる。しかし、そこは彼等にとって、安住の地なのだろうか...

『故郷』を読み進みうちに、私は、小説家は“すごい”...と、思わされてしまった。読む者に“そのこと”—原発を受け入れることが何をもたらすのか—を、描き出される“小説としての現実”の力をもって、読む側の想像力を

かきたて、データーとしてではなく、読者自身の胸のうちのこととして“わからせて”しまうからである。

松浦寿輝（芥川賞受賞作家）が、『朝日新聞』の「文芸時評」（2012.04.25）で〈赤坂真理『東京プリズン』の評としてだが〉、「文学は、政治や社会学の論文とはまったく違う形で、〈歴史〉を問題化することができる…。学知や思想によってではなく、しなやかで強靱な想像力によって…」と。そして、「最近の作家の野心がやや小ぶりになった」ことを嘆き、小説家に「一個人の知識や想像力では到底見通しが利かないような大問題に真っ向から立ち向かおうとする、ドン・キホーテ的な企図」、「小説的想像力」を奮い立たせようと呼びかけている。

水上の『故郷』は、そんな大きな企図を秘めた文学ではないかと、私は思う。是非『故郷』を読んでみてほしい。しかしなぜ、この本が話題にならないのだろうか？ “文学の力”が怖いからなのだろうか？ 『故郷』は1987年から88年にかけて全国の地方紙に連載されたが、「[本にしようとしたら]いろいろな妨害」があって、単行本として発行されたのは10年後の1997年だったという。

そう言えば、忌野清志郎が、若狭の海で泳いでいたら目の前に原発が...と歌った“時宜を得ている”と思える『サマータイム・ブルース』が、TVやラジオから聞こえてこない。“音楽の力”が怖いのだろうか。

（2011.8.29 記. 2012.5.3 憲法記念日に加筆.）

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事・東京農工大学名誉教授

yamazaki@yamazaki-i.org

<読者から> 春の香りを楽しむ

茨城県の中央、笠間市の読者です。

震災はまともに喰らった。塀は崩れ屋根瓦は落ちた。高い放射能で一時上水道は幼児の摂取制限、牛乳の出荷停止があった。今でも0.1マイクロシーベルト付近で下がる気配がない。それでもやってきた春の香りにウキウキしている。

いまはタケノコの最盛期、朝、掘りたてはそのまま味噌汁に入る。山椒の芽がやっと芽吹いた。タケノコの木の芽和えも良い。春の最初はフキノトウ、そしてノビル、何れも酒の肴に、今年は初めてツクシに挑戦、はかまを取り軽く茹でると淡いピンク色、軽い苦味が新鮮。野セリはセリご飯で楽しんだ。

この頃河川の堤防にはヨモギを摘む人影が目立つ。和菓子屋への納入だという。もちろん安全基準はクリアー、なかには「今年は敬遠」とする人もいるが、多くはおおらかに春の香りを楽しんでいる（K・K）。

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.127』が発行されました。
ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

農地の放射能汚染問題の解明◎塩沢 昌

[第37回研究所総会・総会記念シンポジウム]

■総会記念シンポジウム「東日本大震災と農業・農村」

(1)東日本大震災による農業インフラの被災状況◎渡邊 博

(2)福島—希望への道筋を探りながら◎戎谷徹也

(3)風評被害を乗り越える経営力を求めて

—東海 JCO からフクシマ◎照沼勝浩

[特別寄稿]

放射性物質汚染の過度な危険視が農業復興を阻む◎西尾道徳

土壌生成理論・腐植前駆物質による放射能汚染対策の

可能性について◎高味充日児

〈連載〉畦道・赤トンボのナショナリズム [18・最終回]

情愛のふるさと／宇根 豊

<編集後記> 2012年5月5日—この日を胸に刻みたい

5月5日の夜、北海道電力泊原発3号機が定期検査入りし国内の原発がすべて停止した。国内の原発がすべて停止するのは1970年以来42年ぶりのことだという。

「万が一」でも事故が起きれば、被害の規模も影響が及ぶ時間の長さも他とはくらべものにならないのが原発事故である。そのことをどこか他所の国の話でなく、我がこととして突きつけられたのが、昨年3月の東京電力福島第一原発事故であった。

東京新聞の5月5日付朝刊の一面は「原発ゼロ時代に挑む」という大きな見出しをかかげた。翌6日は「原発ゼロ 未来へつなぐ」である。

政府や電力会社の思惑とは裏腹に、世論の多くは再稼動に反対であるし、関係自治体もきわめて慎重である。電力需要が高まる夏を乗り切れば、日本に原発が必要ないことが決定的に示されることになる。2012年5月5日——この日は日本が生まれ変わるスタートに立った日として胸に刻みたい。

2012年05月10日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの方の書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考 ―グローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 333 号の締め切りは 05 月 21 日、発行は 05 月 24 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 333 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2012.05.10（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****